

京都府青少年育成協会会長奨励賞

「相手を理解すること」

相楽東部広域連立立笠置中学校 3年

柴垣歩乃

「ドラえもん」皆さんはこのキャラクターを知っていますか。言わずと知れた日本では馴染み深いキャラクターです。更に海外でも絶大な人気を誇っています。ドラえもんは、二十二世紀、二一〇二年に誕生し、二十一世紀ののび太の世話をするためにやってきたネコ型の子守りロボットです。ドラえもんは四次元ポケットから未来のひみつ道具を出していつものび太を助けてくれます。ですが、ドラえもんには、ネズミが苦手、いざというときにひみつ道具が出てこないなど、他の子守りロボットには見られない「欠点」があります。しかし、ドラえもんが嫌いな人はほとんどいないでしょう。むしろ、「そこがいい」「それも含めて好き」という人が多いでしょう。

では、そもそも「欠点」とは何なのでしょう。「欠点」これを辞書で引くと「よくないところ」と出てきます。そうだとしたら、「よくないところ」とは何なのでしょう。何を「よい」とし、何を「よくない」とするのか、実はそれは、地域や国、文化によって全く感じ方が違うものなのではないのでしょうか。

この例として、日本では当たり前だと思われること。「黙って人の話を聞く」ということを挙げてみましょう。日本では、先に述べたように「黙って人の話を聞く」ということが美德とされています。また「以心伝心」という言葉があるように、相手の思っていることを「察する」という文化があります。話している途中で聞き手が反応したり、質問したりすると「最後まで聞いて」と言われたり、「せっかちな人だな。」と思われることが多々あります。しかし、こんな日本に対して、他の国ではどうでしょうか。相手が話しているときに聞き手の反応が薄かったり、黙っていると、「聞いていない。」「この話、興味ないのか。」というふうに捉えられてしまうかもしれません。そして、自分の思いを口に出さない人は、「元々考えを持っていない。」と思われるか、考えが全く相手に伝わらないかもしれません。

このように同じ事柄でも地域や国、文化によってよいこととよくないこと、つまり長所と短所の捉え方が全く変わってくるのです。

実際、私は「よく話す人」は、人の意見に反応し、場を盛り上げられる、考えをきちんと述べる人というプラスのイメージを持っています。しかし、クラスメイトの中には、「よく話す人」は自分ばかりが話して、相手の気持ちを考えられない、話を聞いていて疲れる人というようなマイナスのイメージを持っている人もいます。

このように、同じ日本人で同じ地域に住んでいる人でも、一つの事柄に対する考えが正反対であることがあるのです。ある事柄に対する考えの違いは、その人の価値観によります。価値観は、人の気持ちと一緒に完全に理解することはできません。しかし、人の価値観を理解しようと努力することでその人の見る世界は広く、豊かになります。人の「欠点」それは一概に決めつけるものではないのです。

もし、ドラえもんに欠点が全くなかったらどうでしょうか。おそらく国民的キャラクターにまではなっていなかったでしょう。ドラえもんは人間の特徴を複写したようなロボットです。はっきりした欠点を持つドラえもんがこんなにも愛されているのは、欠点を個性とし、多くの人がそれを理解しているからなのです。

相手の個性を笑う権利は誰にもありません。むしろ、欠点を直そうと努力し、欠点すらもチャームポイントとしてしまえる人間性こそ人間として本当に素敵な人なのではないのでしょうか。

私は今、中学三年生です。今は、小さい頃からずっと一緒だった仲間と過ごしていますが、あと少しすれば高校という新しい世界に飛び出します。高校の新しいクラスでは周りは知らない人ばかりです。だからこそ、その新しい出会いを楽しみ、相手を丸ごと受け止めたいです。

私の理想とする社会は、誰もが互いを本当の意味で理解し合える社会です。相手の欠点を意識しすぎると、どうしても大きく見えてしまうものです。だからこそ、皆さんには、欠点を欠点と決めつけるのではなく、おおらかな見方で相手を見る努力をしてほしいのです。そうすれば、私達の暮らす世界はもっと広く、豊かで、暮らしやすくなるでしょう。